

【平成 28 年 4 月 1 日以降、当院にて消化管静脈瘤と診断された患者さん方へ】

当研究の対象者として該当される方にお知らせ致します。対象とされることを希望されない場合や疑問点などがありましたら、お手数ですが下記連絡先までご連絡ください。

【研究タイトル】

消化管静脈瘤診療における超音波内視鏡検査の臨床的有用性に関する検討

【研究背景・目的】

消化管静脈瘤とは、肝硬変をはじめとする肝疾患の際に門脈圧（お腹の中の臓器からの血液が肝臓へ流入する血管の圧）が亢進し、食道や胃など各種消化管の内側の静脈が太く蛇行しコブ状に膨れた状態をいいます。程度の軽いものは特に心配ありませんが、大きくなると、消化管粘膜の壁が破れて（静脈瘤破裂）、時として突然大出血を来すことがあります。場合によってはショック状態となり、生命に危険を及ぼすことも有り得ます。消化管静脈瘤は通常内視鏡検査（胃カメラ、小腸・大腸カメラ）にて発見されますが、内視鏡検査の一種である超音波内視鏡検査は消化管静脈瘤の実際の太さを計測したり、静脈瘤周囲の血管の状態を確認することができ、非常に有用な検査法です。これまで静脈瘤の血行動態（どのような血管が、どのように静脈瘤に関与しているか）評価や静脈瘤の治療後の再発予測などに有用であることが報告されており、当院でも消化管静脈瘤の治療前後に原則超音波内視鏡検査を施行するようにしています。

しかし、まだその血行動態は完全には解明されておらず、静脈瘤治療に伴う血行動態の変化や治療後の再発規定因子（どのような静脈瘤が再発しやすいのか）、さらには治療に伴う肝機能への影響など解明されていない点も多いのが事実です。

この調査では、超音波内視鏡検査が、消化管静脈瘤の精密検査や治療が必要な患者様に対してどのように役立つのかを検討し、今後の検査および治療に役立てることを目的としたものです。

【研究期間・取得情報】

- ・ 研究期間：平成 28 年 4 月 1 日～平成 34 年 3 月 31 日までです。
- ・ 対象：平成 28 年 4 月 1 日から平成 31 年 3 月 31 日までに飯塚病院で内視鏡検査において消化管静脈瘤と診断された患者さん
- ・ 取得情報：患者さんのカルテにある経過、血液検査の結果、胃カメラ、CT 画像を使用して、分析します。

【個人情報の取扱い】

研究の際の個人情報の取り扱いは、研究責任者により厳重に管理され、外部への研究発表の際には患者さん個人を特定する情報は含まないようにして行います。

研究の対象となることを望まない旨の申し出があった場合には、ただちに研究対象から除外します。なお、匿名化（データの識別のために個人を特定できる情報を番号・記号等に置き換えること）を行った後の患者さんの情報については、研究から除外できない場合もありますのでご了承下さい。

【診療記録(カルテ)等の開示について】

当院は、研究に使用しました患者さんの診療記録等について、患者さんが開示を求められた場合には、遅滞なく内容を確認し、当院の「患者情報の提供等に関する指針」に従って対応いたします。当院の診療記録等に関してのご質問や患者さんの個人情報のお問い合わせは、下記、「問い合わせ先」にてお受けいたします。

- ・ 診療記録を複写・印刷する場合の料金：枚数×20 円＋消費税

【研究組織】

研究責任者：飯塚病院 消化器内科 赤星 和也

【問い合わせ先】

〒820-8505

福岡県飯塚市芳雄町 3-83

飯塚病院 消化器内科 氏名 久保川 賢

TEL：0948-22-3800（代表）